平成19年 第5回
教育委員会定例会会議録

平成19年5月8日(火)

港区教育委員会

港区教育委員会会議録

第2239号

平成19年第5回定例会

日 時 平成19年5月8日(火) 午前9時33分 開会

場 所 教育委員会室

「出席委員」	委 員 長	小 島 洋 祐
	委 員	横 矢 真 理
	委 員	五味原 康
	委 員	澤 孝一郎
	教 育 長	高 橋 良 祐

「説明のため出席した事務局職員」	次 長	川 畑 青 史
	庶 務 課 長	山 本 修
	教育政策担当課長	堀 二三雄
	学校施設計画担当課長	野 澤 靖 弘
	学 務 課 長	安 部 典 子
	生涯学習推進課長	佐 藤 國 治
	図書・文化財課長	宮 内 光 雄
	指 導 室 長	藤 井 千 恵 子

「書 記」	庶務課庶務係長	岡 田 圭 子
-------	---------	---------

「議題等」

第1 教育長報告事項

- 1 魅力ある学校づくりのためのアンケート調査について
- 2 港区立学校設置条例の一部を改正する条例(案)について
- 3 教育用パーソナルコンピュータ等の購入について
- 4 生涯学習推進課4月事業実績と5月事業予定について
- 5 港区社会教育委員について
- 6 港区青少年委員について
- 7 港区体育指導委員について
- 8 図書館・郷土資料館の4月行事实績と5月行事予定について
- 9 指導室5月事業予定について
- 10 港区立教育センター条例の一部を改正する条例(案)について
- 11 土曜特別講座(中学校)の出席率の推移について

- 12 平成18年度港区立幼稚園、小学校及び中学校卒業生等の進路状況について
- 第2 協議事項
- 1 港区における生涯教育の施策の方向づけについて
 - (1) 学校教育の環境整備について
 - (2) 社会教育の施策について

「開 会」

○小島委員長 それでは、平成19年第5回港区教育委員会定例会を開会いたします。

(午前9時33分)

「会議録署名委員」

○小島委員長 本日の署名委員は、横矢委員、お願いします。

第1 教育長報告事項

1 魅力ある学校づくりのためのアンケート調査について

○小島委員長 それでは、早速、日程に入ります。

日程第1、教育長報告事項。

まず1番目に、魅力ある学校づくりのためのアンケート調査について、教育政策担当課長、お願いします。

○教育政策担当課長 魅力ある区立学校づくりのためのアンケート調査の実施概要について、説明をさせていただきます。それでは、資料ナンバー1をご覧ください。

保護者アンケートにつきましては今年度実施で3年目になりますけれども、幼稚園や小中学校に進まれるお子さんをお持ちの保護者の方に、幼稚園や学校、教育施策に関するご要望やご意見をお聞きし、魅力ある学校づくりに活用し、教育施策に反映させることを目的として実施いたします。

それでは、概要についてご説明いたします。

1番、実施時期でございますが、アンケートの実施・集計については6月～8月を予定してございます。それから、集計結果の報告、また概要版の配付につきましては9月を予定してございます。

続きまして2番、実施方法でございますが、本業務については業務委託ということで業者委託で実施します。調査方法につきましては、直接対象者に調査票を郵送し、返信用封筒により回収いたします。

続きまして調査対象でございます。要件といたしましては平成19年5月1日現在、住民登録のある区民で、4月1日現在、記載の(1)～(4)まで満2歳児、4歳児、10歳児、12歳児、4年齢区分を対象に調査を実施いたします。参考までに5月1日現在、4年齢区分の合計人数は5,174人でございます。昨年と比較いたしまして、300人ほど増えております。

続きまして、2ページをご覧ください。

調査項目ですが、全員に対しまして共通項目として、居住地域、区内居住年数、区内定住意向、主に育児を担う人の属性、職業の有無、種類等について調査を実施いたします。なお、調査内容につきましては、3年度目でございますけれども昨年度、一部修正を加えております。本年度については経年の変化を見るということでほぼ昨年と同様な調査内容で実施したいと考えてございます。

続きまして、満2歳児の保護者に対する調査でございますけれども、内容としましては、よく耳にする幼稚園や保育所に関する話題、幼稚園での3年保育の利用意向、私立幼稚園への支援のあり方などを質問したいと考えております。

続きまして、満4歳児については幼稚園や保育所での子どもの生活ぶりの把握状況、幼稚園や保育所への満足度及び不満とした理由などを質問したいと考えております。

1枚おめくりください。3ページ目をご覧いただきたいと思います。満10歳児に対する調査については、子どもの習い事や塾の状況、卒園した幼稚園や保育所の種類、区立私立中学校での話題などについて質問したいと考えております。

続きまして、満12歳児、中学校一年生でございますが、通わせている中学校に公私立などの内訳などをお聞きしたいと思います。また、学校での話題、中学校での子どもの生活ぶりの把握状況等について質問したいと考えております。

続きまして5番、予算措置でございますが、約378万円を予定してございます。

続きまして報告・広報でございますけれども、広報みなと6月11日号に実施について掲載をしたいと考えております。それから、本教育委員会への報告につきましては、9月を予定しております。さらに、区民への周知ということで広報みなとに9月21日号で予定しておりますが、集計結果概要を報告したいと考えております。

簡単ではございますが、説明は以上でございます。

○小島委員長 ただいまのご説明に対して、ご質問ございますか。

○澤委員 このアンケート、教育政策担当課長から説明がありましたように3年目になって特にいろいろな区民の教育への要望、あるいは期待ということがよくわかる。中でも選択希望制については我々行事等で学校へ行くと、地域との乖離ということで見直さなければいけない雰囲気を感じておりました。選択希望制の見直しをする際にこのアンケートでは、70、80%の区民の皆さんが支持していただいているということで、見直すのでもマイナーチェンジでいいのではないかという視点が持てたという意味でも、非常に重要なアンケートだと思っております。

ただ、3年目になるので毎年やる必要があるのか。そう言いますのは、安くない経費をかけてやっているのに全体的な傾向を見るのだと、今後はもう少し間をおいてやってもいいのかな。あるいは、その間別の視点のアンケートみたいなものとか。そういったことを感じておりますけれども、その辺事務局としてはどうでしょうか。

○教育政策担当課長 委員ご指摘のように、本年度で3年目のアンケート調査になります。私どもとしては、先ほどお話がありましたけれども学校選択制とか学校に対する要望等について一定の保護者の意向・傾向は把握できるのかなと認識してございます。来年度に向けては同様な調査を引き続きするというのではなくて、今ご指摘の、例えばテーマを変えて調査をするとか、本年度については悉皆の調査をしておりますが、ある部分についてだけの調査をするとか、いろいろな調査の内容については来年度に向けて検討していきたいと思っております。

○小島委員長 そのほか、ご質問ありますか。

○澤委員 6番の広報のところなのですが、広報みなとだけではなくぜひ教育委員会のホームページにも載せるようにしていただきたいと思っております。

○小島委員長 その他ございませんか。

○澤委員 本質的な質問ではないのですが、昨年度も質問したのですが業者は、昨年度は確

か初年度とは違ったと思ったのですけれども、今年度は昨年度と業者は違っていますか。そう言いますのは、整理してもらうのにもノウハウがあるので、そういった積み重ねも重要なのではないかという見方もあるので。今年度の業者は決まっているのですか。

○教育政策担当課長 業者につきましては初年度と昨年度は同業者でございました。業者の適用については入札をとっておりますので、たまたま2年連続同じ業者だったということです。今年度につきましても入札で考えております。入札ということになりますので、これから契約管財課に契約依頼を出します。それについて結果として、我々としては同業者の方が慣れているということで、そういう意味ではスムーズに行くのかなと認識してはございますけれども、ただ内容的には単純集計とかクロス集計等、また自由意見の整理がございますので、一定のレベルの業者であればどこでも履行可能と考えてございます。

○五味原委員 このアンケート調査は我々にとってみますと、区民の皆さんのお考え、感じられていること、我々は幅広く区民の方々から伺う機会が少ないわけです。どちらかという指導的立場にあるとか、地域の方々であるとか、熱心なの方々とかのご意見を伺っておりますので、このアンケートは大切なものだと思うので、先ほどおっしゃったように例えば視点を変えたりとか、何かによって以後も続けていただくことは非常に大切だと思っております。これは要望でございます。

2 港区立学校設置条例の一部を改正する条例（案）について

○小島委員長 次に港区立学校設置条例の一部を改正する条例（案）について、学務課長、お願いします。

○学務課長 資料ナンバー2をご覧ください。

港区立学校設置条例の一部を改正する条例（案）という形になっております。本件は改築計画が進んでおります白金台幼稚園、あるいは高陵中学校につきましてこの夏を目途に仮設の校舎の方に移転することとなっております。それに伴いまして、学校の設置場所の住所が変わってくるようになります。したがって、その住所を改正するというものでございます。

1枚資料をおめくりいただきまして新旧対照表の方をご覧くださいと思います。

1枚目、高陵中学校の部分でございます。別表第二にございます現在の西麻布四丁目14番8号に位置しておりますが、それを南麻布四丁目へ移転するという内容になっております。なお、住居表示につきましては現在住居表示を申請している段階でございまして、今週中ぐらいには確定するかと思います。確定次第その内容を入れていきたいと考えております。

もう1枚おめくりいただきますと幼稚園でございます。現在白金台幼稚園は白金台三丁目7番1号でございます。それを同じ白金台でございますが移転するというものでございます。丁目、番地につきましては高陵中学校と同じで現在申請中でございます。決定次第この中に入れておきたいと思っております。

次に、この条例につきましては次回6月に開かれます区議会の定例会の方に提案をしていきたいと考えております。また、付則に「この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する」と記載されております。仮設の校舎は今建設中でございます。もう少し、しばらく進んで具体的な日程が

決まり次第、日時を確定させて教育委員会規則の方で定めていきたいと考えております。以上で説明を終わります。

○小島委員長 ただいまのご説明に対して、何かご質問ありますか。

これは、この程度でよろしいですね。

3 教育用パーソナルコンピューター等の購入について

○小島委員長 続きまして、教育用パーソナルコンピューター等の購入について、学務課長、お願いします。

○学務課長 続きまして、資料ナンバー3をご覧いただきたいと思います。

教育用パーソナルコンピューター等の購入についてでございます。昨年度も教育用にパソコンについては購入しておりますが、今年度も引き続き購入していくものでございます。購入する内容としては大きく三つございます。一つがパソコン教室にあるパソコン機器の更新。二つ目が学級増分のあった学校に対するパソコンの購入。三つ目が教務用パソコン。教員に配備するパソコンの購入でございます。

まず1点目、パソコン教室の機器更新でございますが、パソコン教室のコンピュータにつきましては購入年度の古い学校から順次計画的に入れかえをしているところでございます。本年度更新する学校は、平成18年度に機器を導入した学校でございます。小学校が6校、中学校が5校ございます。小学校につきましてはパソコン教室に対して20台、中学校に関しましては40台の入れかえになっております。更新する機器につきましては、パソコン331台、それに付随するサーバー、プリンター、プロジェクター等一式でございます。

2番目、学級増分のパソコン購入でございます。学級増があった学校がございます。その中で不足する部分につきましてパソコンを増設していきたいと考えております。これは普通教室の方に現在パソコンを各2台、デスクトップ型を1台、ノート型を1台入れてございます。普通教室に配備する形で不足する部分の購入をしていきたいということでパソコンを12台購入することにしております。

3番目は教務用パソコンの購入でございます。昨年度各小中学校に10台入れてまいりました。今年度はこれに対し不足する部分のパソコンを買ってまいります。パソコンを202台、小学校が146台、中学校が56台でございます。今年度購入しますと教職員1人1台の配備が完了する形になっております。なお、教員のネットワークについてはインターネットには接続しない形を考えております。これは平成18年度の方であらかた工事を済ましておりますので、それに加えて接続をしていく形になります。インターネットは接続できません。業務の性質上どうしてもお子さんの個人情報を扱いますので、情報漏えいの危険性等もございますので、そういった観点から閉鎖型のネットワークという形で判断しています。

コンピュータの購入案件につきましては、設定金額が議会の議決を必要とする金額を超えてまいりますので、これにつきましても第2回の定例会の方に議案として提出します。なお、このパソコンに関する予算額としましては私どもの方で今年度およそ1億円、購入経費ということで予算は確

保しております。以上でございます。

○小島委員長 ただいまのご説明に対して、ご質問ございますか。

○澤委員 パソコンもいつときどんどん進化して、今回も6年目でほとんど半分の学校がかえることになって、金額的にも1億円と随分大変な額なのですけれども、そろそろハードの進歩も大体落ち着いてきたのかなと思います。パソコンを合計すると545台を購入することになるのですけれども、これの予算はどのくらいを見込んでいるのですか。

○学務課長 これにつきましては、小中学校合わせまして購入経費予算としてトータルで1億円、確保してございます。

○澤委員 それは全部サーバー5台も、あるいはプリンター、プロジェクターも全てですか。例えばその中の内訳でパソコン545台はいくらですか。

○学務課長 契約する段階で積算して、計上していますので、想定する金額はありますが今手元に資料がないのですけれども、1億円でパソコンとサーバーとプリンターのすべての購入となっています。

○澤委員 では、決まった段階でまたご報告いただけますか。

○学務課長 1台あたりにつきそんなに高い金額ではないと思います。

○澤委員 1台あたりどのくらいですか。

○学務課長 実勢価格ぐらいだと思います。

○澤委員 500台を1億で割ったって、20万弱。それにサーバーだとかあるわけだから最大10何万強。大体そういう感じですかね。

○小島委員長 では、よろしいですか。

○教育長 更新したりするために学校現場と委員会をつくって検討をしているのでしょうか。ソフトの検討とか、あるいはハードのこんなものを入れるとか内部の検討会は。

○学務課長 パソコン教室の更新につきましては、学校メンバーとの協議という形ではなくパソコンも進んでいきますのでその時代時代において一番最新型とはいきませんが、教育内容に支障がないものを入れていきます。ですから、毎年買いかえれば機能的にはバージョンアップしていく形になっています。

○教育長 情報機器検討委員会というのはなかったですか。指導室と学務課と一緒に学校現場でやっている。例えば電子黒板だとかを入れるとかありましたよね。

○学務課長 それについては私は把握していないのですが、教務用パソコンに入れるソフトについては、校長会とお話をしながら検討していこうと考えております。

○教育長 校長会の中の組織と学務課あるいは指導室と一緒にやっているということですか。

○指導室長 名称は今定かではないのですが、そういう会を設けてソフトの内容については、例えばデモンストレーションを校長会の役員の方と一緒に見たり、本当に有用かどうかというのを検討して購入する手続をもって進めています。

○教育長 そういう委員会組織とか学校と業者の方とのつながり、接続は良くしないと機器は入れたけれども活用は十分ではなかったとか、そういうことがないようにするために現場との委員会を

大事にしてもらいたいと思います。

○指導室長 ICT委員会を、情報委員会というのを立ち上げておりますので、今のお話につきましてはまたこちらの委員会を通じて進めてまいりたいと思っております。

○小島委員長 確かに1億円とかなり高価な投資をするわけですから、子どもたちの教育、学力の向上にうまく結びつけることが大事です。指導室長、よろしくお願いします。

4 生涯学習推進課4月事業実績と5月事業予定について

○小島委員長 続きまして報告事項の4番目、生涯学習推進課4月事業実績と5月事業予定について、この件につきましては資料の配布をもって報告といたしますので、後ほど資料4をご覧くださいようお願いします。

5 港区社会教育委員について

○小島委員長 続きまして報告事項5番の港区社会教育委員について、生涯学習推進課長、お願いします。

○生涯学習推進課長 それでは、資料番号の5番をご覧ください。

港区社会教育委員名簿でございます。学校関係者が変わりましたのでご報告申し上げるものです。

校長会会長の宮本先生と川嶋先生がそれぞれ委員になってございます。前は六本木中学校の佐藤公信校長先生、芝小学校の榮校長先生でした。変更点について現行報告をいたします。

○小島委員長 この点について何かご質問ありますか。

○小島委員長 これは校長会の会長先生が当て職ですか。わかりました。

6 港区青少年委員について

○小島委員長 続きまして港区青少年委員について、生涯学習推進課長、お願いします。

○生涯学習推進課長 それでは資料番号の6番をご覧ください。

港区青少年委員名簿でございます。こちらは昨年4月にお出ししているものと変更点についてご報告するものでございます。

赤坂地区のところでございます。西尾健さんが加わってございます。昨年22名とご報告申し上げましたが、現在1名加わってございます。23名となっております。西尾健さんにつきましては区立小学校PTA連合会会長ということで、地区の委員会の方からご推薦をいただいております。以上でございます。

○小島委員長 この件につきまして、何かご質問はありますか。よろしいですか。

7 港区体育指導委員について

○小島委員長 次に港区体育指導委員について生涯学習推進課長、お願いします。

○生涯学習推進課長 それでは、資料番号の7番をご覧ください。

こちらは港区体育指導委員名簿でございます。昨年平成18年4月のときと比較いたしました

て、2名ほど変更が出てございます。朝日地区中嶋律子さん、昨年の11月末に一身上の都合でご退任されてございます。港陽地区金子昇一郎さん、今年3月末に一身上の都合でご退任をされてございます。当初27名でございましたけれども、平成19年4月現在25名に変わってございます。以上、変更点についてご報告申し上げます。以上でございます。

○小島委員長 この件について、何かご質問ありますか。

○澤委員 体育指導委員の方は区としても、地域のスポーツ振興という方向性の中で重要な役割です。私の地元なのですけれども、赤坂地区1人で、先ほどの青少年委員は地区委員会の推薦ということですが、体育指導委員の場合は推薦組織みたいなものはあるのですか。

○生涯学習推進課長 同様に他薦によるものがございます、推薦の団体については中学校区であること、青少年対策委員会、それから体育団体、また前任の体育指導委員の方からの声という形でございます。

○小島委員長 よろしいですか。

○五味原委員 2名が抜け、どなたか入っていただくという話にはつながらないのですか。

○生涯学習推進課長 欠員の補完については明確に規定はございませんが、今回港陽地区、赤坂地区、朝日地区、推薦が挙がってきた場合にはその補充について追加していくとなっております。残任期間と言っているかもしれない。

○五味原委員 体育指導委員の方々は大変な仕事だと思うのですけれども、基本的になっていただけの方、委託を受けていただけの方がいないというのは、どこに原因があるのですか。

○生涯学習推進課長 原因という点ですと難しいところも、地域で内定がいるとかそういうところがあることが現状かと思えます。あと、地区の中で技能を持ったこの職にふさわしい方をご推薦いただくことが難しい面がございますので、そういった点でなかなか挙がってくるにはそれなりの要件をクリアするという意味での難しさがあるのかなと感じております。

○五味原委員 推薦の仕方、その他、何か少し見直して考えていかないと、例えば赤坂の場合には1名しかいないという非常にゆゆしき状況にあるのではないかと思います。この辺は是非一度推薦を受けるのか何なのか、積極的に行政側がお願いしていくのか、ぜひ検討いただきたいと思えます。

○生涯学習推進課長 欠けている地区の他の指導委員の方、ご負担も大きくなりますし、その地区にとって、またスポーツの振興という意味ではマイナスでございますので、まず行政から働きかけを検討していきたいと思えます。

○教育長 働きかけをするという、その働きかけの中身の問題だと思うのですけれども、現状25名の体育指導委員がいらっしゃるわけですけれども、会長以下、体育指導委員の方々にしっかりお話を聞いて、体育指導委員を地域から推薦するための諸条件、さまざまあると思えますけれども、どういったことを改善していったらいいのかということも含めて、生涯学習推進課の方で調査、あるいは話し合いを含めて具体的な働きかけ、中身について検討していただきたいと思えます。

○小島委員長 生涯学習推進課長に各委員から色々なご要望が出ましたので、その点につき、今後十分配慮していただきたく、よろしくお願ひします。

8 図書館・郷土資料館の4月行事实績と5月行事予定について

○小島委員長 続きまして報告事項の8番、図書館・郷土資料館の4月行事实績と5月行事予定について、この件につきましては資料の配布をもって報告いたしますので、後ほど資料8をご覧くださいようお願いします。

9 指導室5月事業予定について

○小島委員長 続きまして指導室5月事業予定について、この件につきましては資料の配布をもって報告いたしますので、後ほど資料9をご覧くださいようお願いします。

10 港区立教育センター条例の一部を改正する条例(案)について

○小島委員長 続きまして10番、港区立教育センター条例の一部を改正する条例(案)について、指導室長、お願いします。

○指導室長 それでは、資料ナンバー10をご覧ください。

この条例は港区立教育センターが三田中学校の改築に伴いまして、7月中旬に移転しなければならないということがございますので、その移転先について位置を示すための改正を行うものでございます。これにつきましては、議会に提案をするということで考えております。

経過でございますけれども、平成18年2月に行われました小学校跡地活用検討委員会におきまして、教育センターと子ども課の中で、待機児童の受け入れ施設を旧飯倉小学校で開設することが了承されておりましたが、待機児童が当初想定していた数を上回り、教育センターが使用する予定の部分も使用せざるを得ないという状況が生まれてまいりました。一方、教育センターの敷地につきましては、隣接する三田中学校の改築に伴いまして三田中学校が使用することとなっておりますので、そこを解体しなければ次の三田中学校の建築時期に大きく影響するということが上がってまいりました。移転するにあたりましては、廃校、廃園となった空き教室や校庭、区有施設、区有地などさまざま検討してまいりましたが、いずれもさまざまな条件に合わず、利用が困難となってしまうまいりました。そこで、移転の緊急性と必要性から賃貸事務所ビルを使用して教育センターを開設することになりました。ここがございます港区芝二丁目1番30号というのは、賃貸事務所ビルの住所でございます。ビル名は菱化ビルというところでございます。

この教育センターは現在、教育関連複合施設計画の中で改築の計画がございますので、その改築がおおむね5年後の竣工を目指しています。その間は仮施設で業務を実施することになっております。この貸しビルの選定につきましては、港区教育センター仮施設選定委員会を設けまして、3回実施しました。選定方針の決定、視察、採点、順位決定などを通して1位になりました。選定にあたりましては、価格、安全性、利便性、立地、その他さまざまな状況を勘案して決定したということでございます。以上でセンターの改正に関する条例の説明を終わります。

○小島委員長 ただいまの説明について、ご質問ございますか。

○澤委員 いろいろ検討の結果ということなので、それなりの場所だろうと思います。しかし5年

間という長期にわたっての仮住まいで、センターの機能にももちろん差しさわっていないということを確認して決められたのでしょうけれども、その辺は念を押すようですけれども大丈夫なのですか。センターもいろいろな子どもの教室とか最近積極的にやられているようなのですけれども。

○指導室長 確かに面積的には現在の1つのビルを全部教育センターで使っていきたいという形からは3分の1以下という面積になってしまいます。ビルの1フロア約522平米のところなのですが、センターとしての一番の機能としては、まず年間2千数百件という数の教育相談の場所をきちんと確保すること。さまざまな教育情報に関する資料を置ける場所。会議等研修を行う場所。そして事務や教育相談員、研究相談員の人たちの事務を行う場所。それぞれの最低限の確保をして場所を有効に活用したいと思います。さまざま持っております教育財産的な資料はどこか空いている学校の部屋に、旧飯倉小学校に置かせていただいて、新しくできたところには資料として、また設置できる形をとりたいと思いますので、必要最低限の諸室を何とか確保するという方向で、現在の教育センターの重要な機能は十分にそこで機能させたいと思っております。

○五味原委員 結果論ですけれども、例えば教育センターを動かさなければならない、移動しなければならないというのは、少なくとも三田中学校の建てかえというときにもうわかっている。もしくはそれ以前から問題点として出てきている。そして私たちは盛んに言ってきたのですけれども、小中学校の統廃合に基づいて生じた教育財産を外すのではなく、一部はそれなりに何かしら確保していただきたい、地元で教育施設として何かしら残していかなければ地元の方々とお話をする上でも非常に問題点があると申し上げてきたのですけれども、以後これは十分に考えて、それなりに一つの場所を長い目で、5年、10年のスパンで検討しながら計画していただきたいと思っております。これは要望でございます。

○小島委員長 今五味原委員のおっしゃることはまさしくその通りだと思います。飯倉小学校のところだという案が、子ども課の方の要望で使えなくなったというのは確かにそちらもそちらで非常に大事なことだと思いますけれども、教育センターの重要な役割から考えると5年間もどこかに仮住まいというのも今まで芸がなかったのかなという気がしないでもないですが、これは5年間新しい施設ができるまでこちらにいるというのはある程度計画としては確定的なプランですか。

○指導室長 旧飯倉小学校に入りたいというのは大きな強いこちらの要望でございましたけれども、何としても子ども課がそこを使わねばならないということがあります。一方、教育関連の複合施設計画が全体の計画の中で進められておりますけれども、まだそちらの目途がはっきりとしておりません。一応場所まで決まったというところにとまっておりますので、できれば早く複合施設に移転したいというのはこちらの願いになります。何分全体的な関係の中にこちらだけがこうしたいというのは難しい状況です。

○小島委員長 やむを得ない状況になってきたと。

○教育長 事務局の方もこのことについては何年も前からわかっていることですので、さまざまな場所の検討をしてみいました。その間、一長一短というのですか、いろいろありましてなかなか確定ができなかった。そういう中で飯倉小学校の跡地となったのですけれども、港区の幼少人口の急激な増加、これは予想をはるかに超えていて、待機児童のために200くらいの定員増を図った

のです。ところが、それでは全然追いつかないくらいの幼児人口の増加がありまして、待機児童の解消は区長の一つの公約でもありますし、そういう中で飯倉では、仮に保育所をやっていたわけですが、それを手直ししてある意味臨時的に保育所をつくらざるを得ない状況になった。そういう中で教育センターの機能を損なわない最低範囲の中で、どこかいい適地を見つけることになりました。区有施設の中でできれば一番よかったですけれども、なかなかそうもいかない。適当な場所がなかったということで、こういうことになった。

しかし、教育相談も含めて教育相談、教員の研修は極めて重要なことですので、そういったことが損なわれないような形でやっていきたいと考えてございます。

○小島委員長 ほかに何かご質問ございますか。

確かに教育センターが3分の1になったというのはマイナスですけれども、やむを得ない状況ですので、そういう中でも教育センターの役割も従前と比べ質が落ちないように頑張っていたきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。よろしいですか。

11 土曜特別講座（中学校）の出席率の推移について

○小島委員長 それでは次に移ります。土曜特別講座（中学校）の出席率の推移について、指導室長、お願いします。

○指導室長 それではお手元の資料ナンバー11をご覧ください。

これは1枚目が生徒による授業評価結果、2枚目が出席状況ということで、2枚つづりの資料となっております。

まず、生徒による授業評価結果につきましては大変高い評価であるということがわかります。青と緑が肯定的な意見のところでございます。土曜講座の先生の話し方、それから先生方の板書の仕方について、説明、丁寧な対応、授業の理解などは9割を超えて良い結果と生徒から評価をされておりまして、また、14の質問全体の平均が一番下に書いてございますけれども、87%の生徒がプラスの評価をしているということでございます。

また、2枚目につきましては出席状況でございますけれども、1学期、2学期、3学期となるにつれて徐々に減少している傾向がございます。特に中学校3年生は3月は受験の時期になりますので低い状況となっております。下の学年ほど出席率がいいということと、1学期の方が非常に良いというデータが出てございます。それで、ここにある数字のアンケートとともに子どもたちに記述式のものも書いてもらっております。資料にはございませんけれども生徒からは、「丁寧に熱意をもって指導してもらうので信頼関係を感じている」とか「講師の先生に尊敬の気持ちも持っている」、「学習への意欲が引き出されてきた」ということがあります。また発展的な問題に取り組むということで、学ぶ意欲にもつながっていることや学校の復習、学校の授業に沿った内容を学ぶことで自信がついたということがあります。また、わからないことが報告できたことで、達成感を味わうこともできています。一方、講師の先生が厳しかったり、中には雑談を、脱線することが多いということがあって、そのあたりについては信頼感がなくなってしまったと言う生徒もございました。

保護者からは、学習の様子や成果を直接見ていないので客観的な評価をしてほしいという要望が

ございましたので、今年度は要所要所で小テストを実施することで既に進めているところでございます。また、良い面では「土曜日勉強にいくということで学習習慣、生活習慣が身についてきた」とか「熱意があってわかりやすい説明をしていることを子どもから聞いていて感謝している」という声もございますが、さらに「理科や社会をやってほしい」とか「もっと発展の中身を充実してほしい」というご要望もいただいておりますので、これにつきましては契約している会社の方で全部把握して、本年度に生かしていくということを伺っているところでございます。

中学校の教員にもアンケートをしてございまして、大きな声で堂々とした態度で指導していることについてはプラスに評価しておりますけれども、マイナス面としては生活指導面には、課題があるのではないかとといった意見もありました。例えば飽をなめているのではないかとか、学校では禁止していることをやっているのではないかと感じているという教員からの評価がございました。一方、家庭学習の補完にとっては非常にいいのではないかと教員も中にはいまして、おおむねよくやっていると感じているようです。データの言いますと、教員が良い評価をしている学校ほど子どもたちの出席率がよくなっています。「頑張っているね。いいね、いいね」と言うと子どもも行くようになるのでしょうか。

今後、指導室としても校長、副校長、それからさまざまな機会を通して教員にも一緒にやっという形で働きかけをしていきたいと感じているところでございます。以上でございます。

○小島委員長 ただいまの説明について、何かご質問はございますか。

○横矢委員 表の方なのですが、途中から出なくなった子どもというのかなり多そうですが、この子たちも全部含めたデータなのですか。回答なのですか。

○指導室長 そこは確認してございません。

○横矢委員 最後まで来た子どもの意見と、途中で抜けた子どもの意見では大分違いがあるのかな、そこに何か今後の課題があるのかなという気がしますので、そこは調べていただけたらと思います。

○指導室長 調べておきます。

○小島委員長 そのほかございますか。

参加の申込者数というのは全生徒さんのどのくらいなのですか。このアンケートは参加者の中のアンケートですよね。全生徒の中で土曜講座を申し込んだのは何パーセントくらいになるのですか。

○指導室長 平成18年度の手持ちがないのですが、今年度の申し込み率の最新情報を申し上げますと、全体的には中学1年生におきましてはかなり高く80%くらい、ある学校では99%の申し込み率のある学校もございます。全体では中学1年生では75%、中学2年生ではちょっと少なくて45%、中学3年生は平均で50%と、全体的なものですが学校によっては若干差があるということでございます。

○小島委員長 一応学校別の資料はあるわけですか。

○指導室長 ございます。

○小島委員長 何かのときに、学校別の申込者数を見せていただきたい。土曜講座は強制ではなく

て希望参加ですよ。ただ、土曜講座に対する期待度というのがいろいろな人によって違うだろうと思うのですが、私なんかはものすごく期待しているものですから、100%くらい出席していただいて、港区の中学校の基礎レベルを全体的に底上げするために大いに活用できたらなと思っています。もう少し参加率を高められないのかというのが2点目で、土曜講座と学校の授業といかに連携するのか、そこら辺にどのような工夫を使っているのか、要望と質問とごっちゃになっているのですが、そのような感想を持っております。

○指導室長 参加率をぜひ上げてほしいとは思っているのですが、土曜日は一方で部活動も熱心に行っている子どもさんもいますので、そのあたりは子どもの希望に任せているということですが、今後より一層成果を上げていくことによって、訴えていくものをつくっていかねばと思っております。また、先ほど教員側のアンケートというのがあったのですが、1回も見ていない教員が、40%くらいおります。本年度は土曜特別講座に中学校の先生も様子を見てくれということのお話をして協力を求めていますので、何も見ていないで批判的なことを言うよりもきちんと自分の目で確かめて、授業を進めていくことも大事だという話をしてまいりたいと思って、データを活用しながら訴えてまいりたいと思っています。

○小島委員長 学校の方で土曜特別講座は余り期待しないという考えもあるのですか。

○指導室長 期待していないというよりも子どもたちから様子を聞いたり、アンケート調査を見ると土曜日なのでそちらに任せているという部分があると思うので、教員の方からは若干否定的なアンケートの結果も出ています。それは事実でございます。

○小島委員長 3学期が総出席率低いわけですが、中学3年生が受験ということで低くなるのであればわかるのですが、中1、中2も全体的に1、2学期よりは落ちているのですよね。そこら辺は1、2、3学期少しずつ減っているのは各学年ともなのでなぜなのかなという気がします。いずれにしても期待が大きいので、もう少し出席率が上がってもらわないと。アンケートを見ると非常にいいことなのですが、先ほど横矢委員の質問もありましたけれども、全体的に見るともう少し工夫ができないかなという気もするものですから、そこら辺をもう少し考えられればお願いしたいと思っております。

そのほか何かございますか。

○澤委員 小島委員長のお話のように、それから指導室長の説明のように、受けた子どもたちは「すごくよかった」と言っています。子どもたちの間というのは結構情報のやりとりもあります。パーセントだけを余り問題にしなくても、もちろん出席率の高いのにこしたことはないのですが、良ければ自然に集まるというのがありますし、学校側が積極的ならばよろしいのではないかと。委員長がご心配していた数値ですが、私が見ると中学3年生は別ですが、中1、中2は1学期はいろいろ興味もあって申し込んだ。けれども、やっているうちになくなっていて、2、3学期というのは若干減っても中1、中2はそんなに大きく減っていない。だからその辺は定着しているのではないかと。1学期の終わった時点であきらめる子はあきらめてしまっている。そんなふうに読めたのです。

○小島委員長 基礎、発展と2クラスに分かれているのですが、もう少し習熟度別に4クラスくら

いに分けられないですか。

○指導室長 2クラスに分けるとということはそれぞれの教科に2人ずつ講師を、発展を持つ人と基礎を持つ人となっていますので、これを4つにすると4人ということなので倍の金額がかかってしまうことになると思います。

○小島委員長 個人的に非常に土曜講座に期待をかけているものですから。

○指導室長 子どもは発展に入ったり、基礎に入ったらずっとではなくて授業の途中で基礎にいる子どももう少しこちらをやった方がいいのではないかということを見分けましたら、入れかえています。固定的ではなくて子どもの学力や興味、意欲に応じて変えていくということでありますので、テキストもそれに伴って変えていくというやり方をしております。中身的にはきめ細かに子どもに応じたものをしていこうと進めているのは事実でございます。

○小島委員長 やはり教育ですから長い目で見なくてはいけないわけですが、これをして各中学校の基礎的学力はアップしたのでしょうか。

○指導室長 まだ今年度の学力調査が終わったばかりでございますが、昨年度の区の学力調査、都の学力調査を見る範囲では、国語、数学、英語につきましては若干上がってきているという、土曜講座のせいだけではなく各授業で教員が一生懸命指導していただいているのでありますが、相まって徐々に中学校については若干伸びが見られているのは事実でございます。

○小島委員長 今後ますます区の中学生の学力のアップにつながればと思っておりますのでよろしくをお願いします。

この件はこの程度でよろしいですか。

12 平成18年度港区立幼稚園、小学校及び中学校卒業生等の進路状況について

○小島委員長 続きまして、平成18年度港区立幼稚園、小学校及び中学校卒業生等の進路状況について、指導室長、お願いします。

○指導室長 資料ナンバー12をご覧ください。

平成18年度の区立幼稚園修了児の進路状況、小学校卒業生の進路状況、2枚目が中学校卒業生の進路状況ということで、毎年ご報告しているものの昨年度の状況についてのご報告でございます。まず、幼稚園につきましては公立の小学校への進学率は平成17年度と比較いたしますと、若干ではありますが0.7%の増加となっております。私立小学校への進学率は平成17年度とほぼ同様でございます。小学校につきましては区内の公立中学校への進学率はほぼ昨年度と同様でございます。0.1%増加してございます。私立中学校への進学率については数字を見ますと3.8%の減少となっております。

めぐりまして2枚目、中学校の都立高等学校への進学率は昨年度とほぼ同様でございます。0.1%増加となっております。私立高校への進学も同様ですが、逆にこちらは0.1%減っていることでございます。進学を希望しております未定のものでございますけれども、下の段の「進学を希望して未定」の2という数字がございます。これは3月31日現在のものございまして、その内の1名につきましては4月の募集で都立の通信制に合格をしてございますので、現在未定の

ものは1となつてございます。この1の生徒については、引きこもりの状態で進学の意味がなかなかつかめないということですが、母親は何とか私立を受験させたいと考えているということで状況を調べてございます。就職率につきましては0.5%の増、一方無業は0.8%の減ということでございまして、昨年度と比較した数値が最後の方に出てございます。説明は以上でございます。

○小島委員長 ただいまの説明に対して、何かご質問ございますか。

○澤委員 小学校卒業生の公立中学校へのパーセンテージが0.1%増加しているのはありがたいことなのですが、絶対値としては昨年より60名ふえたということですよ。当初100名の増加という話が3月末で4月が全体で500名となり、60名増加ですが数値的には0.1%なのですかね。

○教育長 3月31日現在というのと、この間出たのは4月6日付ですか、そこに若干の差があるのですか。たしかそうですね。60、70人、70人弱ぐらいですね。そういうことは、区外からの転入者が多かったということも言えるかもしれないですね。これは進路状況であって4月6日の入学者数というのとはまた別なので。

○澤委員 区立の小学校からの数値ということですか。絶対数でそれだけ増えたからパーセンテージでももう少し増えてもいいかなと。希望的なものですけれども。

○教育長 539名ですから。大分違いますよね。

○指導室長 今の1年生は591名。

○教育長 その差ですよ。ここで言うと539人ですから60人くらい違いますから。

○小島委員長 そのほかございますか。

○教育長 これを見ると私立中学校への入学者のパーセントが3.8%。3.8%という数字は動きとしては大きな数字です。プラスは多分都立中学校、公立の中高一貫がふえたプラス2.5%。これは結構ふえている。

○小島委員長 都立中学校には今後の課題です。港区の生徒を持っていかれてしまう可能性があります。

○教育長 全都で10校ですからね。たいしたことはないだろうと思いますけれども。

○小島委員長 そのほかご質問ございますか。この程度でよろしいですか。高校への進学はどうですか。高校への進学は毎年と余り変わらないようですね。

○澤委員 他県・外国が10名。平成17年度と比べると4倍近く。

○五味原委員 中学校卒業生の進路のうち平成17年度の定時制に行ったお子さんというのは何人ですか。

○指導室長 今資料が手元にないのでお答えできません。

○小島委員長 それではよろしいですか。

この程度にしまして、あと教育長報告事項で何かほかにごございますか。特にありませんか。

第2 協議事項

1 港区における生涯教育の施策の方向づけについて

(1) 学校教育の環境整備について

○小島委員長 それでは、日程第2、協議事項に移ります。

まず、港区における生涯教育の施策の方向づけ、学校教育の環境整備について、教育政策担当課長、お願いします。

○教育政策担当課長 本日のところ継続協議でお願いいたします。

○小島委員長 続いて学務課長、お願いします。

○学務課長 本日のところ、継続協議でお願いいたします。

○小島委員長 それでは、この件については継続協議とします。

(2) 社会教育の施策について

○小島委員長 続きまして、社会教育の施策について、生涯学習推進課長、お願いします。

○生涯学習推進課長 本日のところは、継続協議でお願いいたします。

○小島委員長 それでは、この件については継続協議とします。

ほかに、何かございますか。

○澤委員 一点、毎年の懸案課題としてまとめたものですが、平成19年度の懸案事項と平成18年度の進捗状況ですが、1冊でいいと思うのですけれども、次長いかがですか。

○次長 気になっておりまして、本日お示しできればよかったですけれども、二つありまして議会との関係で時間が少ないことと今回から仕組みを若干オール港区で変えていまして、今項目のセレクトを副区長と私のところで先週終わったばかりです。当然、教育の中の懸案課題のセレクトもほぼ終わっていますので、次回に時間をとらせていただいております。

「閉会」

○小島委員長 それでは、他になければこれをもって、閉会といたします。

次回は、5月22日火曜日午前10時からの予定です。よろしくお願いいたします。

(午前10時41分)

会議録署名人

港区教育委員会委員長 小島 洋祐

港区教育委員会委員 横矢 真理